

立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」
2021 年度第 4 期 助成事業報告書

団体名：NPO 法人 ALL OK

1. 振り返りエッセイ

- 枠の大きさは規定のものから変更せず、その中に収まる分量でお願いします。
- こちらの文章は提出後、アカツキ Web サイトにて公開致します。
- 必ず、「振り返りインタビュー」実施後に記入してください。

AKBN ファンドを活用した「立ち止まり対話する」取り組みについて、いつ何を行ったか・どのようなことが起きたか・メンバーの誰がどう発言したか等について、自由な形式で作文してください。なお、書き方に特に形式の指定はなく、「エッセイ」のようなイメージとしています。

NPO を立ち上げて、最初に出会った「NPO 法人アカツキ」。
NPO をコンサルする NPO?? 衝撃的でした。
そして「用途自由な助成金」があるなんて・・・
みんなで飲み会したい～合宿したい～でもやっぱり、HP に掲げるビジョン、ミッションを作りたい～夢が膨らむ中、2 回目のアケボノファンドのチャレンジ。
ちょうど、新メンバーになったばかりだったので、みんなで一緒にスタート！
と意気込んでいました。私だけ。
アケボノファンドの用途は、1・アカツキコンサルでのビジョン、ミッションの明文化。
「オンライン OK 会」2・メンバー内の親睦を図る為の「ランチ会」
の予定でしたが、コロナの為「ランチ会」は残念ながら「オンライン飲み会」に。
しかしながら、5 回開催された「OK 会」では、初回からメンバーの活発な発言にビックリしました。
例えるとするなら、「私は前に進みたいのに、みんなは隣を、まずは横を確認したい」。
毎回、雪松さんと日隈さんの細かい、丁寧な、鋭い質問や意識の確認作業に何度も悲鳴を上げそうになりながら、オンライン、グループ LINE でのやりとりでした。回を重ねる毎に、メンバー内で新しい発見や疑問が出てきたり、各自で連絡取り合ったりと進展が見られ、「オンラインって便利だ！」参加できない場合は録画もできるし、気になる部分は後で確認できるし、夜なら参加しやすいな、と利便性を実感。
しかし、後半になるとやはり「オンライン」では伝えきれない、伝わらない気持ちや感情、限られた時間内での対話の限界・・・モヤ～とした気持ちのまま次回へ。振り返るとこの経験が ALLOK にはよかった！と思います。
「NPO だから」「ALLOK だから」などと無理にカタチに嵌めることなく、急がず慌てずそれぞれのペースで、それぞれのやり方で、同じ方向に向かっていれば ALLOK!
そんな根源が認識できたスタート準備期間だったと思います。
自分達だけの対話では、そこまで突っ込むことができなかつたし、OK 会終了後もオンラインでのミーティングは継続的にできているので、今後はリアルでの親睦の為にアケボノファンドの活用をしていきたいと思っています。
このようなチャンスを頂きありがとうございます。

2. 支出報告書

- 領収書ほか会計証憑書類の添付、当初予算からの残額の返金は不要です。
- 枠の大きさは必要に応じて増減して構いません。
- こちらは「振り返りインタビュー」実施前に記入されても構いません。

決算会計報告		
種別	内容	収入金額
□本助成金	AKBN ファンド「想いと向き合う」	200,000 円
□その他		
費目	対象・使途・目的・内訳（具体的な詳細を記入）	金額
□人件費		
□賃借料		
□飲食費	10名@2000円 オンライン飲み会	20,000
□消耗品費		
□交通宿泊費		
□印刷製本費		
□通信運搬費		
□その他	アカツキコンサルタント料金	96,800
□未使用残額		83,200
合計金額		200,000

3. 助成プログラムへのフィードバック

- AKBN ファンドに対する評価・疑問・要望・期待等を記載ください。

財源のない私たちにとって、「自由に使える助成金」と言う響きがとても魅力的に感じていましたが、必要なのは「対話する時間」だったと実感しました。まだ走り出していない NPO にとって、走り出す前にこのプログラムを活用できたことで、今後「立ち止まり、振り返る」ことの重要性を認識することができました。

残金は、期間中に実現できなかったリアルでの親睦会、社内研修に使用していきたいと思っています。（5月14日1回目予定）

設立3年以内限定プログラムなど、あれば良いかと思えます。

終了後のインタビューだけではなく、途中経過も聞いて欲しかったです。

アケボノファンドを活用している他の団体との交流の機会もあればよかったです。